

看護・介護職ら1200人

誤嚥性肺炎予防でシンポ

オーラルケア

誤嚥性肺炎予防と摂食嚥下機能向上について歯科や医科、看護、介護の立場からそれぞれ話し合う「口腔ケアシンポジウム」が9月23、24日、東京・神宮の日本青年館で開かれ、歯科医療従事者を始め約1200人が全国から参加した。主催・オーラルケア。



①講演する紙屋氏 ②会場の様子

1日目は佐々木秀忠氏（秋田看護福祉大学長）、紙屋克子氏（筑波大学社会医学系教授）、高野喜久雄氏（総泉病院院長）、黒岩恭子氏（村田歯科医院院長）らがそれぞれ看

護師や医療の立場で講演し、歯科医師の五島朋幸氏を座長に迎えパネルディスカッションが開かれた。

紙屋氏は一命は取り留めたものの深い意識障害に陥った患者の家族に「一口の食事も自分で食べられないのならば助け

てもらったことにならない」と言われた経験を話し、「医療に詳しくない患者の家族にとって食は一番分かりやすいバロメーター」と述べ、口から食べることに重要なと訴えた。また、佐々木氏は「嚥下反射が低下していると思

われる患者でも黒コシヨウのおいをかがせたり、食物の温度を上げるなどちょっとした工夫で、反射を刺激することは出来る」と紹介し、高齢者の生活のリズムなども考慮した食事の在り方を提案した。

2日目は米山武義氏（米山歯科クリニック院長）や、金谷節子氏（浜松大学健康プロフェッショナル学部長）、小山珠美氏（東名厚木病院看護部主任）、田中靖代氏（ナーシングホーム気の里代表）らが講演とディスカッションをし、口から食べることの重要性を確認した。